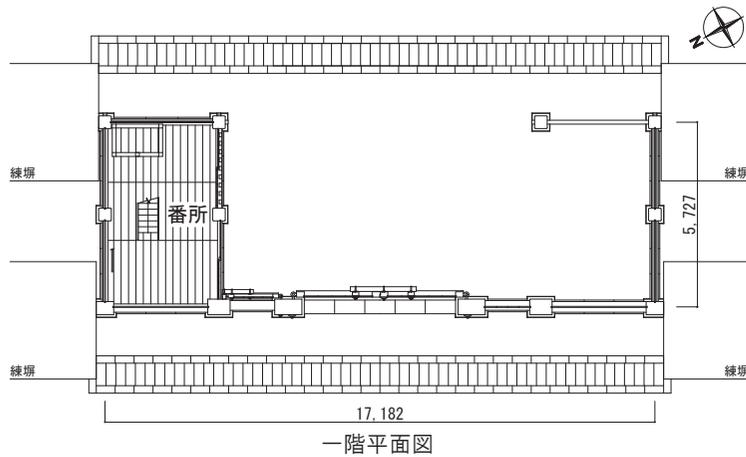
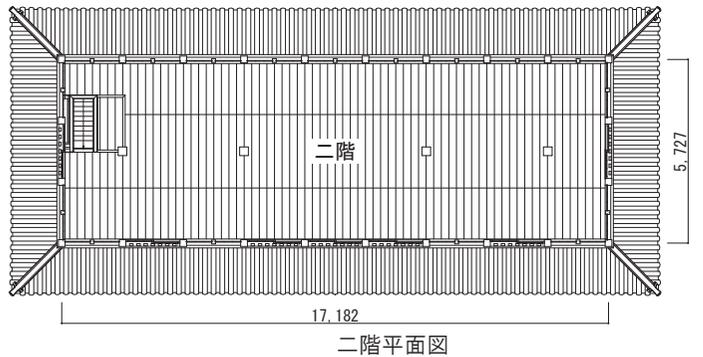


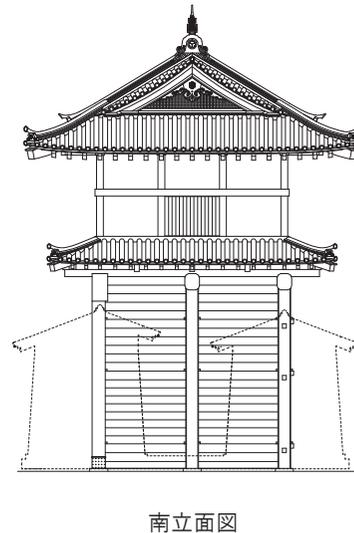
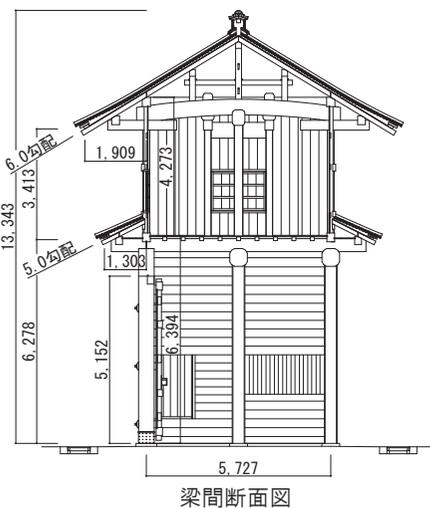
◆復元（整備）図



復元年代
古写真（幕末～近代）に写る姿は、天保期に建て替えられたものであると考え、天保年間（1830～1844）の姿に復元する。



材種
一階柱：樺
冠木：樺
冠木梁：松
棧梁：檜
二階柱：檜
小屋梁：松



制作：（公財）文化財建造物保存技術協会

茨城県指定史跡水戸城跡（昭和42年11月24日指定）
水戸市指定史跡水戸城跡（平成28年1月29日指定）

水戸城大手門復元整備 及び外構整備工事の概要

◆工事の目的

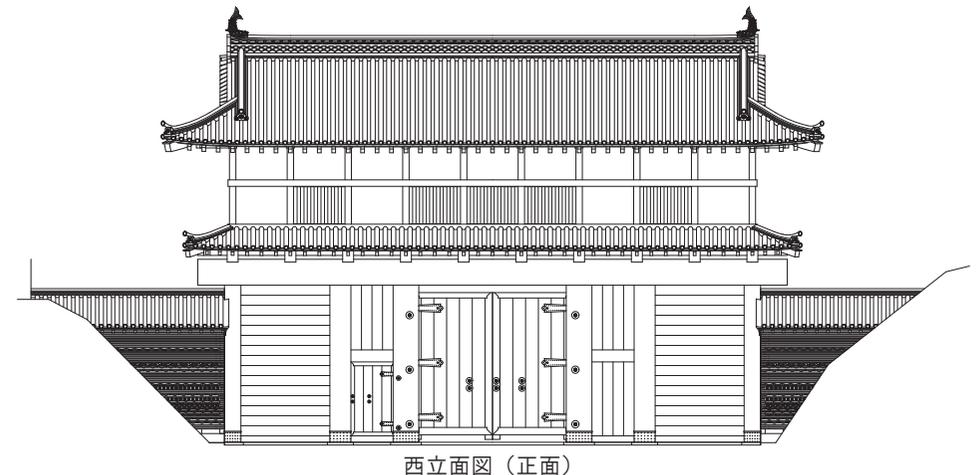
茨城県指定史跡水戸城跡（壘及び濠）内において、史跡地の文化財保護（保存と活用）のため、明治以降に失われた大手門及び練塀を復元・整備するものです。建物は、城内の景観を形成する重要な要素であるため、より城全体の価値を高めるよう、遺構や史資料を基に意匠や構造を往時の姿に復元することを主たる目的としています。

◆大手門及び練塀の形状と規模

大手門 櫓門潜戸付、一階番所付、木造、入母屋造、本瓦葺
練 塀 鉄骨下地、両下造、本瓦葺

◆工事概要（大手門・練塀とも）

基礎工事 遺構面を保護し、鉄筋コンクリート基礎を設置の上、花崗岩切石礎石据付。
外部仕上 一階板壁。二階真壁、竹小舞下地、土塗、白漆喰仕上。
内部仕上 全面真壁。板張仕上。
屋根工事 入母屋造、本瓦葺。大棟は箱棟（張瓦に漆喰塗）。両端鬼瓦・鯨瓦付、降棟・隅棟は鬼瓦・烏釜瓦付。一階四周庇付、本瓦葺。目地漆喰、際漆喰。練塀は切妻造、本瓦葺。雀口白漆喰塗。



◆工事前、基礎工事

工期 平成 29 年 5 月 11 日～令和元年 9 月 30 日



工事前の様子

復元整備工事が始まる前は道路であり、通路として利用されていた。



基礎工事

基礎コンクリート打設後、花崗岩切石の礎石、地覆石、雨落石を据え付けたところ。

◆木工事、左官工事



軸部の組立

一階軸部を組み立てたところ。北側端間が番所となり、中から二階へ上がる。



小屋組の組立

二階軸部、小屋を組み、垂木を取り付けているところ。



左官工事

二階の壁に小舞掻き、荒壁付け、裏返し、斑直しまで施工したところ。



外部白漆喰仕上

二階外部は、斑直し後、中塗り、上塗りを施し、真壁白漆喰仕上。

◆屋根工事、造作、建具工事



土居葺

上屋根の土居葺を施工しているところ。野地板の上に薄く割った杉板を葺き重ねる。



本瓦葺

平葺、丸瓦伏せ、大棟に鬼瓦を据え付けたところ。



鯨瓦の据え付け

各棟積を施工し、大棟両端に鯨瓦を据えたところ。鯨瓦の高さは 1.0m。



内部造作

二階の壁に縦板、床板を張ったところ。背面以外は開口部があり、引違板戸が入る。

◆外構工事（練堀）



大扉

一階正面に大扉を吊り込んだところ。一枚が幅 2.6m × 高 4.7m と非常に大きい。



瓦積

瓦を積み、瓦の間を漆喰で埋めたところ。遺構に倣い、一部飾瓦を入れている。